

アートアクアリウムの金魚 Q & A

Q. ここには金魚が何匹泳いでいるの？

アートアクアリウム美術館 GINZAには約70種類、3,000匹を超える金魚が泳いでいます。

Q. 金魚のご飯は1日何回？

毎日 1～ 2回、一匹一匹に行き渡るよう、金魚の様子を見ながら時間をかけて食事のお話をしています。夕方になると餌の時間が近づくのでみんなソワソワし始めます。

Q. 金魚のご飯はどんなもの？

金魚のごはんは金魚専用フードです。その中でも病気になりにくいハーブと金魚の体にとってよい動きをする細菌が入っていて、健康を保ち、金魚の色がより自然で綺麗になるような栄養も含まれています。

Q. 水中で動かずじっとしている金魚がいるのはなぜ？

寝ているからです。魚にはまぶたがないので、寝る時も目が開いています。当館の金魚たちは、毎日夜間は館内の照明を消して睡眠をとっていますが、午前中や夕方に昼寝をしている金魚もいますので観察してみてください。

Q. ここで一番大きな金魚は？

この美術館にいる金魚の中では、東錦(アズマニシキ)という種類の金魚が一番大きいです。金魚コレクションエリアの作品にいますので探してみてください。

Q. 水槽の中に金魚じゃない小さい魚がいる！？

水槽のお掃除係のブレコやガラ・ルファ(ドクターフィッシュ)です。ブレコはナマズの仲間、吸盤になった口で水槽に付いた藻を食べてくれるので、水槽内の環境維持に活躍しています。

Q. 金魚が水面で口をパクパクしているのはなぜ？

金魚は人に懐くと言われており、特に朝や夕方は餌をもらえと思ってパクパク近寄ってくる場合があります。

Q. ぶくぶく気泡(エアレーション)が出ていない水槽があるのはなぜ？

気泡が出ていない水槽は、下部の装置で水槽内の水に酸素を取り込んで循環させています。口ではなくエラで呼吸をする金魚にとって最適な環境に設計しています。



◀こちらで
様々な金魚の楽しみ方をご案内しています



金魚図鑑

アートアクアリウム
美術館
GINZA

アートアクアリウム美術館 人気金魚

毎年夏に開催している「推し金魚選手権」にて見事王者となった歴代人気ナンバーワン金魚をご紹介します
どちらも「新金魚品評」で見られるので、ぜひ探してみてください♪

2025 2025年王者



蝶尾 (チョウビ)

左右に突き出した大きな目と、はねを広げた蝶のような尾ひれが特徴の金魚。更紗(2色)や、キョリコ(3色)など、体色のバリエーションも豊富な種類です。

2024 2024年王者

水泡眼 (スイホウガン)



目の下の大きく発達した水泡状の袋は、下まぶたにあたる部分が肥大化したもの。この袋は、目を保護するのにも役立っています。ぶっくりしたほっぺにも見えるその姿がとっても可愛い金魚です。

2023 2023年王者

ピンポンパール



琉金の仲間、名前の通りピンポン玉のようなまん丸フォルムと、表面が真珠のように盛り上がったパール鱗が特徴。コロんとしたフォルムで泳ぐ姿に癒される、王道の人気金魚です。

アートアクアリウム美術館の金魚たち

和金型

金魚の原種であるフナに最も近く、スリムな魚らしい体型の品種。
中国で生まれた金魚を日本で改良したものであり、そこから「和金」と名づけられました。

和金 (ワキン)



金魚すくいでもおなじみの、オーソドックスな日本の金魚。同じ和金でも、尾ひれが分かれた「三ツ尾和金」もいます。館内では「金魚の滝」や「金魚の竹林」で見ることができます。

コメット



和金をベースにアメリカで生まれた「彗星」の意味を持つ金魚。細長い胴体と長い尾ひれで素早く泳ぎます。アートアクアリウム美術館のシンボル作品でもある「帯舞」の中で泳いでいます。

地金 (ジキン)



愛知県の天然記念物。和金タイプのフォルムに、X字に開いた尾ひれ、六鱗(ろくりん)と呼ばれる体色を持ちます。尾ひれは愛知県・名古屋城の「しゃちほこ」を連想させます。



オーロラ



名前の通りオーロラのような美しい輝きを持つ、平成生まれの新しい金魚。尾ひれが四つ尾で、成長するに従って、さらに大きく伸びるという特徴を持っています。

オランダ獅子頭型

頭部に肉瘤(にくりゅう)というコブが大きく発達している品種。
頭のコブが獅子(ライオン)に似ていることから「獅子頭」と呼ばれています。

オランダ獅子頭 (シシガシラ)



頭の大きな肉瘤(コブ)から獅子頭と名が付き、さらに舶来物には異国のものの意味で「オランダ」と付けていた江戸時代に中国から輸入されたことから、この名前になりました。

東錦 (アズマニシキ)



オランダ獅子頭と三色出目金の交配で生まれた、大きな体と肉瘤(コブ)が特徴の金魚。館内には、このほかに東錦と同じオランダ獅子頭から派生した種類の金魚も泳いでいます。

丹頂 (タンチョウ)



輝く白銀の体に、頭の上の赤い肉瘤(コブ)が特徴的な金魚。オランダ型の特徴であるボリュームのある体を持ちます。帽子をかぶっているような赤い肉瘤(コブ)は、一目見たら忘れられないインパクトを与えます。

ジャンボ獅子頭 (シシガシラ)



オランダ獅子頭型は大型になる種類で、そのなかには全長30cmを超えるものもあります。ジャンボ獅子頭は名前の通り、そのなかでも大きな体をもつ金魚。全長が40cmを超えるほど大きく成長すること?!

琉金型

体が丸く、背が高くもり上がっている品種。江戸時代に琉球(現在の沖縄県)から薩摩(現在の鹿児島県)に持ち込まれたと言われており、「琉金」と名づけられました。

琉金 (リュウキン)



丸いフォルムと優雅な長い尾を持つ、金魚の代表的な種類。紅白の混じった「更紗」や「桜琉金」のほか、ショートテールなど、館内にはいくつもの種類の琉金があります。



土佐錦 (トサキン)



“金魚の女王”と称される、高知県の天然記念物。前方が反転した大きな尾が特徴。アートアクアリウム美術館の家紋シルエットの金魚は、この土佐錦をモチーフにしています。

らんちゅう型

背びれがないという特徴をもつ品種。その丸くて大きな体でゆっくりと泳ぐ姿がとても優雅で、「金魚の王様」といわれている種類です。

らんちゅう



“獅子頭”と呼ばれる肉瘤(コブ)が発達した頭と、背びれのないぶっくりとした体の特徴。愛好家も多く、“金魚の王様”とも称されています。

頂点眼 (チョウテンガン)



真上を向いた目と、背びれのない独特なフォルムが特徴です。出目金の突然変異といわれており、視力は弱いのですが、代わりに嗅覚が優れています。

出目金 (デメキン)



読んで字のごとく、眼が左右に飛び出した金魚。琉金の突然変異から生まれました。成長していくにつれて、徐々に目が飛び出ていきます。

玉サバ (タマサバ)



玉のような体にサバのような尾を持っていることから、金魚であるにもかかわらずサバという名前がついた種類。琉金系の特徴であるボリュームのある体ですが、スリムな和金系の金魚のように活発に泳ぎます。

南京 (ナンキン)



出雲地方で古くから飼育されてきた希少な種類で、島根県の天然記念物。背びれのない体と、四ツ尾とよばれる尾ひれが特徴。土佐錦、地金と並ぶ「三大地金魚」とされています。



ライオンヘッド



著しく発達した頭の肉瘤(コブ)があるでライオンのたてがみのように見えることから名付けられた金魚。背面からみると、コブが側方にも大きく発達していることが見られます。